

平成 23 年 9 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

山口県の主要指標 DI 値（平成 23 年 9 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、好転：2.5% 悪化：48.8% DI 値：▲46.3% ポイント

売上高（＜増加＞－＜減少＞＝＜DI 値＞）





前年同月比は、増加：16.3% 減少：41.3% DI 値：▲25.0% ポイント







収益状況（＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、好転：10.0% 悪化：43.8% DI 値：▲33.8% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 23 年 9 月末現在）

 30 以上	 10～30 未満	 10 未満～▲10	 ▲10 超～ ▲30 未満	 ▲30 以上
--	---	--	---	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲50.0	▲50.0	▲33.3	▲100.0	▲50.0	▲50.0	▲50.0	▲51.5
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業	全 体
▲60.0	▲66.7	▲75.0	▲7.7	▲33.3	▲57.1	▲42.5	▲46.3
							

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	先行して開催された会期前国体において商品力、企画力に優れた組合員以外の菓子が好調であった。今後の国体開催期間では、組合員の従前の商品の売上がどうなるのか懸念している。	パン・菓子製造業
	8月度は▲4.2%と前年割れ。9月度も29日時点で対前年比▲5%の推移とやや厳しい。9月LYマイナスの要因は2回の台風影響による来館者減と商材不足が原因。イオン系の大型店舗進出（9.10オープン）の影響もやや受けているようで、精肉・青果などの部門売上が減少。	水産食料品製造業 萩市
	秋の行楽シーズンになったが、消費者の購買意欲は以前よりより堅実になっており、財布のヒモは大変固い。これから年末のギフトシーズンになるが、大変先行きが不安である。	水産食料品製造業 下関市
繊維工業	国体の関係により、少々仕事が増えた。	帆布製品製造業
	先月同様、受注単価低下は続いているが、シーズン変わりの新製品投入で、売上は増加している。今後の状況、10月以降はシーズン物の販売状況により左右される。それ以外で、円高が改善されなく、海外物が店頭で多くなり、国内生産が一層厳しくなり、予断を許さない。	下着類製造業
	10月からの仕事がほとんど入らず苦戦している。残暑により消費が伸びない。また、円高が大きな要因となり、この状態が続くなら廃業・倒産も増えると考える。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	依然として先の見えない状況が続いており、秋の需要への期待感も薄く、在庫を控える動きとなっている。	製材業・木製品製造業 下関市
	今月も小学校の材料受注があるので、昨年よりは、良いですが、全般的な景況は悪いです。組合員、個々の業況については良く解っていない。	製材業・木製品製造業 岩国市
印刷	環境問題、電子化、ヨーロッパをはじめとする経済不安、東日本大震災等々、すべて印刷需要減少の要因、今後ますます印刷市場は縮小する。	印刷
	10月より紙代が大幅に上がるのに、印刷価格に反映できそうにない現状である。	

窯業・土石製品	対前年同月比109%となり、5ヶ月ぶりに同比増となった。公共の伸びが期待できない中、民需への依存度が高まる傾向にある。震災の影響については、現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていないが、今後の値上がり等は懸念材料。	生コンクリート製造業
	出荷量については、対前年比で骨材：110% 路盤材：101% 再生材：82% 全体では、対前年同月比：99%。	砕石製造業
一般機器	欧州の景気後退局面及び中国の金利上昇等による設備投資意欲の減退が顕著となっており、今後の不透明感が更に増している状況にある。	柳井市
	特に前年度と変わりはない。	周南市
	国の予算執行の遅れが影響していたが、徐々に動き始めた。大型構造物関連の関東方面の受注はまずまずである。業界の景況が回復しないのは、車を含む消費者の買い控えも一つの要因である。	防府市
	円高の影響もあり来月から売上高の減少の見込み。	宇部市
	全般的には、横ばい状態が継続している。	
	9月の工場操業度は先月同様上昇しているが、9月の受注は低迷しており月々の変動幅が大きい。9月後半になり中国向け受注や商談が増えてきた。業種は自動車関係のHV・EV用モーター、エアコン用モーター。円高の影響による海外生産の増加が懸念される。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	元請からの受注単価が低下傾向にある。円高による影響が大である。	船舶製造・修理業
	鉄道車両部門では、じわじわと作業量の減少が見られるようになってきた。13年上期までは、この状況が続く見込みで厳しい運営となってきた。全国的に成長の兆が見られない。精密加工部門はまだ好況を維持できている。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	低迷のまま変化なし。	柳井市
	異業種化した団地では、あらゆる業種で売上高・収益とも悪化が目立っている。特に円高と消費者の低価格志向による収益の悪化は人件費等経費の見直しを迫られ、10月以降の事業計画・経営への影響が大きい。景気は底を横ばいの状況で停滞ムードがある。	周南市

	<p>今月も相変わらず、色々な面での自粛のムードが続いているように思う。メインの仕事ではない収入となる仕事の改善に力を尽くして行こうと考えている。</p>	防府市
	<p>「山口宇部道路」の開通に伴い、団地内の道路の通行量が増えた。</p>	山口市
	<p>下関地区の公共工事減少に伴い資材の売上が減少。県外業者の施工が多くなり、地元からの資材調達は非常に少ない状況である。大型量販店が調達する商品についても地元より県外の納入が多く、各業種とも、対応に苦慮している。</p>	下関市
小売業	<p>9月はメーカー主催の売上コンテストがあり、前年比120%を達成した組合員もあり、各店頑張ったようである。組合としては10月20日よりの資生堂食品コンテストで、19期連続した売上げ目標の達成を目指している。</p>	化粧品小売業
	<p>JR徳山駅の解体準備工事開始。国体受け入れ準備作業が真っ盛りとなっている。</p>	周南市
	<p>4月は震災の影響で前年比マイナス。5～7月は前年比プラス。8月は一転して前年比大幅なマイナス。9月に入り前年並みとなりやや落ち着きを取り戻した水準となっている。8月の駐車場の稼働率も、前年比大幅なマイナスであった模様。この動向の分析は出来ない。</p>	山口市
	<p>退店するテナントの多数が地元の店である。ダイエーの退店の影響が大きく苦戦中である。</p>	下関市
	<p>月末まで気温が高めに推移しており、衣料品関連がかなり売上減となっており、SC全体的にも売上は前年割れが永く続いているという厳しい状況である。尚、現在、SC活性化対策として大型テナント誘致に向けた作業に入っている。</p>	長門市
商店街	<p>9/8日、郊外大型店がオープンし、予想以上の盛況である。従来の大型店は客数が激減の様相である。また、従来の1大型店は客数・売上とも減少傾向が続き、商店街も土日の来街者が以前より減少しており、年内は厳しい状態となることが予想される。10/7～10は秋の萩焼まつり、10/21～24の新イベント「ハロウィン収穫祭」で来街者の増を期待している。</p>	萩市
	<p>35年続いたファンシーショップは売上不振のため閉鎖。売上不振の要因としては、①少子化による購買層の減少②ブランド・キャラクター商品から機能を重視した商品への移行③商店街・百貨店から郊外大型店・ネット・通販・アウトレット等販売形態の</p>	山口市

	<p>多様化による、消費者の購入手段の多様化④オーバーストア等が考えられる。他に資金繰りに行き詰まった店もチラホラ見える。少子化の影響は小売業のみならず、順次、全業種に波及するものと考えられる。また、国体開催後の不況と考えられるものが、既に始まっているように思う。</p>	
	<p>アーケード商店街の空店舗となっていた小売雑貨店と大型小売店が売却されて、新たにテーマパークとしてオープンし、商店街に人通りが増加した。特に土・日・祭日は終日、若者（学生）で賑っている。</p>	宇部市
サービス業	<p>9月は台風や雨風が多く、オシャレをする気持ちにならず、来客数が落ち込んだ。この中、業界としてはあらゆる技術講習を行い研鑽を重ねている。</p>	美容業
	<p>デフレが止まらず組合員に元気がない。自粛ムードを払拭できない。</p>	理容業
	<p>自動車販売が一昨年のレベルにまで回復している。しかし、厳しい社会情勢の中では、昨年のような販売による売り上げ増は見込めないことから、新車ディーラーはサービス部門による収益確保に努めている。今後ディーラーによる車検確保の動きが強まれば、整備専門工場は、更に厳しい状況になることとなる。</p>	自動車整備業
	<p>先月と状況は変わらない。システム開発案件が非常に少ない状況。このような環境において、企業はいかにして受注していくか、特に対応が必要となっている。</p>	情報サービス業
	<p>依然として厳しい状況で先行きが見えないが営業努力により需要を掘り起こして行かねばならない。</p>	
	<p>各自治体からの国体関係受注が直接発生している事業所は半数程度と思われる。</p>	屋外広告業
	<p>野田総理誕生は、好転のきっかけになると思われたが、今のところ景況復活の気配なし。円高不安はますます高まってはいるが、じわじわとした食材価格の値あげで急激な動きはない。ギリシャの経済破綻で世界恐慌がささやかれているが、否定するものがないので先行き不安が払拭できない。東日本大震災復興はもたもたしているうちに、台風12, 15号被害に追い討ちをかけられ誰が被災者なのか分からなくなってきた。飲食業界は下げ止まったまま。国体前景気で試合会場地域（山口市）では多少の活性が感じられるが、対前年比に変化なし。</p>	飲食業
	<p>各旅行業者は、福島原発事故による放射能汚染問題の為、PRがし難く、西日本へシフトさせており売上が増加していると推測している。</p>	旅館業 萩市

	売上高増は、会期前大会等の国体関連需要があったため、業界の景況については、東日本大震災の自粛ムードがなくなってきたためである。	旅館業 山口市
	海外の旅行客は、「原発問題」が気になり、また、円高の影響がかさなり拍車をかけて、訪日旅行を避けている。仕入先業者も景気の影響で、廃業する会社がある。同業者も芳しい話はなく、「国体後に廃業するらしい」などの話が流れている。	旅館業 下関市
建設業	公共工事の耐震工事もひと段落。これから先の仕事に関しては、先が見えない状況にある。	鉄骨工事業
	中電への工事申請 8月305件（当支部分257件）前年同月217件（同175件）。太陽光発電への申請17件、オール電化申請15件（前年は太陽光24件、オール電化31件）。LED街路灯への切替・新設申請は80件。受注状況まずまずの様子。	電気工事業
	短工期の仕事が多くなりつつあるが、廃業などで技能者が不足しつつある為、工事が遅れぎみとなっている。また、元請業者が安価受注の為、採算の合わない専門請負業者が多い。	左官工事業
	公共事業の発注は本格化した。が、本年度は特に市町発注の工事量が少ない。民間の建築工事は依然として低調。	土木工事業 柳井市
	先月と状況は変わらない。	土木工事業 岩国市
	23年9月の受注高は、対前年同月比12%。今年度の累計は、対前年比39%。21年の災害復旧工事は一段落した。東日本大震災の影響は無いが、震災復興の為に今後の予算削減が懸念され、官公庁、各団体に要望・陳情をしている。	土木工事業 萩市
	会員数も次第に減少しつつある現状。	内装工事業
運輸業	輸送関係は東日本大震災以後、物流動向は下降をたどり稼働率も下向き。円高により海外への輸送も減少。国内の空洞化で輸送業へのしわ寄せが強くなってきた。油価格は下がってきたが、稼働率の低下で経営面では苦境に立たされている現状である。前年対比=33%の減。油関係は2円の値下げ。	一般貨物自動車運送業 下松市
	9月前半は夏日のぶり返し、中旬はノロノロ12号が、日本列島に大きな被害をもたらし、お陰で道路が込み、運行時間に狂いが出た。燃料は、8月分軽油価格：1ℓあたり、SS価格104.0～109.5円、インタンク（タンクローリー配送の運輸会社の備蓄分）価格101.0円でやや下がった現状だが、荷動きが悪く、ETC事業も約50万位下った。	一般貨物自動車運送業 下関市

<p>保管庫使用率も下がり、組合の収入に影響が出ている。組合員は荷主探しに一生懸命の状態である。</p>	
<p>9月の輸送稼働は前年並みに落ち着いたが、燃料価格は依然として高止まりの状態である。暫くはこの状態が続くと思われ、世界的な不況の影響も近い日に訪れるのではないかと危惧している。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 防府市</p>
<p>運輸業の毎年8月は荷動きが悪く、9月に入ると次第に良くなってくるのだが、今年は様子が違って非常に悪い。東京・大阪などの都会では少し良くなっているとの情報もあるが、その影響が地方まで及んでくるのに、もう少し時間がかかるのかも知れない。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>
<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比+4.5%（8月1日～9月20日分）。8月1日～31日分は+0.7%と微少増加、9月1日～20日分については+10.8%となった。今月の増加分は、ほぼ山口国体会期前開催分（周南市クレール射撃）である。ホテルや交通機関は忙しくなりましたが、夜間の飲食街は期待はずれだったとの話で、10月の本大会開催が大いに期待される。燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動。9月分は8月分と同額だが、前年同月比+14.9%と高値にあり、各事業者の経営に悪影響を与えている。9月30日からの公式練習等、10月1日からの山口国体本大会までの期間が迫っている。宿泊先もほぼ満杯状況のようですが、タクシー事業者も公共交通機関の一員として、円滑な進行に協力していきたい。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>